

令和6年度 江戸川区立葛西小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考える子ども ○最後までやりぬく子ども		○心ゆたかな子ども ○健康な子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・保護者にとって、子どもを通してよかったと思える学校 ・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた子ども ・人権尊重の精神に富む教師 保護者や地域との連携に努め、誰からも慕われる教師	
前年度までの本校の現状	成果	・外国語科や外国語活動と中学校の英語科の連携授業や算数科の研究における中学校教員からの助言、小中合同の防災訓練の実施など小中連携の推進を図ることができた。 ・体育科の授業だけでなく、全校で取り組む活動を通して児童の体力向上に結び付いた。 ・tetoruでの保護者に向けた情報発信が定着した。		課題	・教員の授業力・指導力の向上、同時に学習用タブレットやiPadを活用した授業の展開を図り、児童にとって分かりやすい授業を実施し、基礎的学力の向上を図ること。 ・不登校対策支援シートの継続的な作成と、不登校児童を〇にしていけるための具体的改善策を考えること。	

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の定着	○放課後の補習教室 ○復習の積み重ね ○校内研究による教師の授業力向上 ○家庭学習強化週間の実施	○東京ベージックドリル(算数科)の評価テスト正答率8割以上 ・低学年では全体の85%以上 ・中学年では全体の85%以上 ・高学年では全体の80%以上 ○全国学力・学習状況調査 ・国語科 全国平均以上 ・算数科 全国平均以上	C	C	C	6年生が実施した全国学力・学習状況調査では全国平均を下回った。学力向上委員会では、2学期以降の学習の進め方について検討し、6年生担任においては夏季休業日中に分析し、2学期からの授業改善に向けて計画を立てた。	C	日常生活を絡めながら知識や技能を活用する力が身に付くとよいと思う。 近隣の小学校で全国平均を上回る学校から情報を得るというのもよいのかと思う。	C	東京ベージックドリルテストにおける正答率8割以上の割合は低学年が86%、中学年が81%、高学年が71%であった。教員は粘り強く児童に指導や支援をしているのだが、結果として表れていない。基礎的な学力が身に付くための取組を考えていく必要がある。	C	保護者からの学校評価の結果から、外国語科や外国語活動の授業、算数少人数指導に関して「分からない」という回答が多いことを改善することが、児童の学力定着にもつながるのではないかなと思う。	児童の基礎学力の定着を目標に、学校全体で取り組む。具体的に何をしていくのか今年度計画した対策を具現化できるようにしていく。
	○読書科の更なる充実	○確実な読書科の授業の遂行 ○図書館ボランティアや葛西図書館職員による読み語りやお話集会の充実	○年間読書の本の冊数 ・低学年100冊以上 ・中学年90冊以上 ・高学年60冊以上 ○「調べる学習コンクール」への参加30人以上	B	A	B	学校図書館が使えない時期があったが、各学年とも読書の時間を確保した。 調べる学習コンクールは4年生が学年で取り組んだ。	A	防災体験会の時に中学生が小学生に読み語りをしていた。今後も継続してもらえればと思う。読書は充実していると感じる。	A	児童の読書への興味や関心は高まっている。児童の読書量がさらに増えるように、朝の時間や授業時間での読書の機会を増やしていく。	A	読書への興味や関心が高まっていることはよいことである。活字離れにならないようにしていってほしい。	読書や調べ学習の時間を児童に対して確実に確保していく。そのために読書科の指導計画を明確にする。
体力の向上	○運動意欲や基礎体力の向上	○体育科授業の充実 ○「葛小遊びタイム」の実施 ○体育的行事や取組 ○歯みがき指導の実施	○体力テストの結果 ・どの種目においても東京都の平均を上回る。 ○持久走記録会のタイムの向上 ○年度末の児童アンケートによる回答 ・体を動かすことが心地よいと肯定的に回答する児童85%以上	C	B	B	体力テストの結果がまだ出ておらず、体育関係の行事は2学期後半からの実施が多いので評価は難しい。休み時間になると元気に校庭や屋内運動場で遊ぶ児童が多い。 歯みがき指導は来年度に向けて計画を立てている。	B	日々体を動かすことができているように感じた。運動が苦手な子へのアプローチをもっとしていくべきかとも思う。今後の活動に期待したい。	B	体力テストでは前年度の記録よりも落ちてしまった。原因は様々であるが、運動の二極化と運動への理解不足が大きいかと考える。体を動かすことが心地よいと肯定的に答える児童は87%と高いので、その想いを大切にさせ、さらに考えて動くことに力を注いでいけるように手立てを考えていく。	B	最近の子は外で遊ぶ機会が少なくなっている。学校だけの問題ではないが、体を動かすことが楽しいと思えるように、体育科の授業を充実してもらえればと思う。	休み時間に運動量を増やすのには限界があるので、体育科の授業改善を図り、様々な運動をたくさん経験させるようにする。体力テストに関しては、児童に運動の仕方を確実に理解させ、練習を何度も実施したから本番を迎えさせる。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○特別支援教育の推進	○巡回指導員主導の研修会の実施 ○コーディネーターや特別支援専門員を中心とした特別支援教育の組織化	○研修会の回数 ・年間3回実施 ○特別支援教室を退室する児童の数 ・年度内に5人 ○教職員へのアンケート ・特別支援教育が進んだと答える教職員が80%以上	B	B	B	特別指導巡回指導教員を講師に迎えた研修会を9月上旬に実施した。様々な児童の立場に立って物事を捉える意識を磨いた。 いじめの未解決案件は現在もまだいないが、日々すすんで学習に取り組んでいる。	B	特別支援というワードがなかなかピンとはこないが、今の子どもたちには多くの支援が必要なのかと感じた。学校の先生だけでなく、専門的な知識をもった方が関わってくださっているのはとてもありがたい。	B	教員の特別支援教育への理解は深まっているが、実際にどのような対応していくべきなのかという実践力には課題が残る。今後も研鑽を積み、実践的な力を伸ばしていきたい。	A	配慮が必要な子が多くなっている中で、先生方が個に応じた指導や対応をしてくださっていることに感謝したい。	引き続き特別支援に関する理解を教職員一同深めていく。児童の困り感を救えるように、個に応じた指導の在り方を研修を通して充実させていく。
不登校の対応・充実に努める	○子どもたちの健全育成に向けた取組	○全教職員による児童理解の充実 ○不登校児童分析シートの活用 ○組織的且つ確実ないじめへの対応 ○hyper-QUを活用した学級の見直し	○不登校児童の人数 ・年度末における不登校児童数を〇に近づける。 ○いじめ案件の未解決数 ・年度末には未解決を〇にする。 ○児童への年度末アンケート ・学校が楽しいと肯定的に回答する児童が90%以上	B	A	A	不登校児童は2名である。担任だけでなく、SSWや関係機関と連携して今後の見通しを立てていく。 いじめの未解決案件は現在のところは〇であるが、今後も児童の様子を見て、早期発見を心掛けていく。	A	長期休みが2学期の不登校につながってしまっていると思うので、夏休み中も何かの形で学校に登校できるとよいかなと思う。	A	不登校児童分析シートを活用して、全教員が児童への理解を深めている。不登校児童は増えていないが、登校をしる子は多いので今後も粘り強い指導と言葉掛けが必要となる。学校が楽しいと肯定的に回答する児童は90%以上であった。	A	実際のところ不登校やいじめがどのくらい起きているのかわからないが、学校側が日々努力をしてくださっていることは分かった。今後も対応をお願いしたい。	不登校は今後も増えることがないように、教職員全員が児童一人一人の変化を見逃さないようにする。「いじめは絶対にしてはいけない」という考えを、日々児童に対して発信していく。
学校（園）の地域社会に開かれた実践	○自校（園）の取組の積極的な発信	○定期的なホームページの更新 ○年4回の土曜日の学校公開の実施	○保護者への学校評価アンケート ・「開かれた学校」「学校は情報を発信している」という項目において、肯定的な回答が95%以上	B	A	B	毎日とはいかないが、ホームページを定期的に更新している。今後も児童の様子を発信していく。tetoru発信を常時化し、保護者へ確実に情報を発信する。	A	ホームページは頻繁に更新されている。今後はPTAのホームページも修正や更新をしていきたい。	B	ホームページを始め、学年便りや学級便り等で学校での児童の様子を発信することに心掛けたのだが、保護者へのアンケートでは90%となり、さらに分かりやすい内容を吟味して発信する必要がある。	A	ホームページの更新が頻繁にされているので、学校の様子がよく分かる。今後も続けてほしい。	学校からの発信を引き続き行っていくとともに、内容についても保護者が欲しているものになるように検討していく。
	○学校関係者評価の充実	○年3回の学校評議員会の実施	○学校関係者評価の結果 ・年度末に学校関係者評価の内容に関して、肯定的な回答が85%以上	C	B	B	学校評議員会でいただいたご意見をもとに、今後の取組を改善したり、見直ししたりしていく。	A	学校評議員会では活発に意見が出ており、改善に取り組まれているのがよい。	A	学校評議員の皆様の意見を大切に改善を図っている。本校の良さをさらに全面に出し、課題を少しでも克服できるようにしていく。	A	学校評議員会で話が出たことを、学校側がしっかりと受け止め、検討してくださっていることは嬉しく思う。	次年度も学校評議員会でいただいたご意見を大切に、教育活動に活かしていく。
教育の特色ある展開	○小中連携教育の更なる推進	○小中連携した教員の授業改善 ○中学生から小学生に教える活動	○児童や教職員へのアンケート結果 ・小中連携を行うことで満足感を得たという肯定的な回答が80%以上	C	B	B	外国語科の授業を中学校の英語科の教員と共に考え、実践した。小中で英語による「やりとり動画」を作成した。	B	併設校の良さを活かして、中学校との連携を多くもってほしい。教員だけでなく、児童と生徒との関りも。	A	小中連携の具体的な形が見えてきたことで、何をどのように連携していくのが明確になった。教員は中学校教員との関わりを通して充実感を得る様子が多く見られるようになった。	A	小中併設校となって6年が経とうとしている中で、連携が盛んになっているようで何よりである。	児童と生徒との連携が高まっていくように、どのような取組があるのか模索していく。
	○防災教育の充実	○防災体験会の実施	○参加児童の人数 ・50人以上の参加 ○実施後のアンケート結果 ・肯定的な回答が90%以上	C	A	B	防災体験会が延期となった。参加児童は30人強ではあるが、志をもって取り組めるように支援をしていく。	A	毎年開催され、有意義なものとなっている。災害は皆に訪れるので、低学年も参加できたらよいかなと思う。	A	防災体験会を体験した児童の充実した表情を、今後も大切にしていきたい。地域の方とさらに連携して取り組めるように改善を行っていく。	A	防災に対する興味や関心が更に高まっていくとよい。	中学生が小学生に教えるという形は変えずに次年度も実施していく。